

## 平成 24 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

『手をつなごう 未来へ』を合言葉に、子どもたち一人ひとりの自立と社会参加をめざし、学校・保護者・関係機関の連携を図りながら充実した教育活動が展開される明るく元気な学校をめざします

- (1) 児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズを踏まえた教育活動が展開する学校
- (2) 自立・社会参加に向け保護者や関係機関との連携体制がとれている実効性のある学校
- (3) 地域でのセンターの役割も発揮できる高い専門性が集積された学校
- (4) 毎日、明るく元気に学校生活を送れる健康で安全・安心な学校

## 2 中期的目標

- 1 保護者との連携を強化し、一人ひとりの教育的ニーズを踏まえた教育活動の展開
  - (1) 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の充実、活用、実効性を高めるとともに、一人ひとりの障がいの程度や内容、到達度を踏まえた学習指導プログラム及び教材等を活用する。
  - (2) 「学校教育自己診断」を毎年実施し、課題の整理、改善に努め、教育の内容と質の向上を図る。  
※保護者の提出率が平成 23 年度 74%であり、平成 26 年度には 85%とする。
- 2 自立・社会参加に向けたキャリア教育・進路指導の充実
  - (1) それぞれの発達段階に応じたキャリア教育プログラムの研究・開発・実践を通じ、推進する。
  - (2) 小学部・中学部教員の進路指導に関する知識を高め、関係機関との連携を推進し、進路選択肢の拡充を図る。  
※平成 23 年度の教職員向け学校教育自己診断におけるキャリア教育への取り組み状況が 80%であり、平成 26 年度には 90%とする。
  - (3) 保護者へのキャリア教育や進路指導に係る情報提供の充実を図り、将来的な進路選択に向けて支援するとともに推進する。  
※平成 23 年度の保護者向け学校教育自己診断におけるキャリア教育の認識度 77%であり、平成 26 年度には 85%以上とする。
- 3 センターの機能の充実・発揮と教員の専門性の向上
  - (1) コーディネーターによる地域支援の充実を図るとともに障がい者理解啓発及び交流教育を推進する。  
※平成 23 年度の学校教育自己診断における交流教育の実施状況に対する肯定率が、保護者・教職員共 65%であり、今後は障がい者理解を含めた交流教育の意義を周知し、毎年 5%以上の増加をめざし、平成 26 年度には 80%以上とする。特に、居住地校交流では、平成 23 年度の 20 名から、平成 26 年度には倍増をめざす。
  - (2) 学校ホームページを充実し、教材の紹介の発信等、地域の小学校・中学校の支援教育をサポートする。  
※平成 23 年度には再構築を行い、今後支援教育のサポート資料の充実をめざす。
  - (3) 校内研修の充実や ICT の活用等を工夫し、教育内容の質の向上を図るとともに教員のノウハウの共有化・蓄積化を促進し、専門性の向上を図る。  
※ICT 機器の活用した教育活動の充実は、平成 23 年度の教職員向け学校教育自己診断では 66%であり、平成 26 年度には 80%以上とする。また、専門性向上の研修の充実では、85%が肯定的意見であったが、更なる充実を追求する。
  - (4) 特別支援教育に係る免許保有率は、平成 23 年度 50%であり、平成 26 年度には 70%をめざす。
- 4 安全・安心な学校づくりの推進
  - (1) 一人ひとりの人権を尊重し、一層の安全・安心な学校づくりの推進  
※平成 23 年度の保護者向け学校教育自己診断における不審者対応等の満足度は 96%であり、更に機能的なものへと進化させる。
  - (2) 安全教育や健康教育（食育を含む）の指導法の開発及びその実践の進化  
※平成 23 年度の保護者向け学校教育自己診断における安全教育や健康教育の満足度は 90%を超えているが、施設・設備の安全や美化の満足度では、60%であり、学校の老朽化はあるが、毎年 5%以上の増加をめざし、平成 26 年度には 80%とする。
  - (3) 危機管理マニュアルを毎年検証し、安全で安心な学校づくりを推進する。  
※平成 23 年度から取組んでいるヒヤリハット事例集を平成 24 年度中に作成し、今後内容の充実を図る。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">教育的ニーズを踏まえた教育活動の充実・展開</p>	<p>(1)「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の充実、活用、実効性を高めるとともに、一人ひとりの障がいの程度や内容、到達度を踏まえた学習指導プログラム等を活用する。</p> <p>ア 保護者との連携の強化 イ 一人ひとりの課題に応じた教育活動の充実 ウ 個々の児童生徒に応じた学習指導プログラム及び教材等の活用</p>	<p>ア・児童生徒の実態把握と家庭との情報共有を図るため、学年通信（小学部：毎週、中学部：月に1回）や学級通信（随時）、連絡帳（毎日）等で保護者への情報提供を図る。</p> <p>・昨年度の家庭訪問は、限られた学年（小学部1・4年、中学部1年）で実施していたが、全学年5月に行う。また、昨年度3学期に取組んだ下校指導（自宅からバス停までの通学路）を併せて行う。</p> <p>イ・5月の家庭訪問で個々の児童生徒の課題を保護者と共通認識し、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の充実を図る。特に、福祉医療関係人材活用事業（ST）を平成23年度の43名以上が相談できる体制を組む。</p> <p>ウ・学習指導プログラム等の活用のための教材交流会や授業見学等の研修会を充実させる。</p> <p>・ALTを活用した国際理解教育及び授業アンケート等を充実させ、授業力を高める。</p>	<p>ア・発行回数の把握及び保護者向け学校教育自己診断結果における家庭との連携に関して肯定率 98%（平成23年度95%）</p> <p>・保護者向け学校教育自己診断結果における子ども様子に関する肯定率 90%以上（平成23年度86%）</p> <p>イ・保護者向け学校教育自己診断結果における個々の指導・支援に関する肯定率 90%以上（平成23年度87%）</p> <p>ウ・保護者向け学校教育自己診断結果における教科学習に関する肯定率 90%以上（平成23年度85%）</p> <p>・平成23年度の倍増をめざす。</p>	
	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">キャリア教育・進路指導の充実</p>	<p>(1)キャリア教育プログラムの研究・推進 (3)キャリア教育の意義及び必要性の啓発</p> <p>ア 教職員へのキャリア教育の意義及び必要性の意識向上 イ 保護者へのキャリア教育の啓発</p>	<p>(1) 発達段階に応じたキャリア教育プログラム作成のための検討会議を年度当初より運営委員会で検討し、研究・推進する。</p> <p>(3)</p> <p>ア・進路指導部を中心に、小中学部の児童生徒に必要なキャリア教育の研修を学期に1回行い、教職員の意識改革を図る。</p> <p>・本校独自の進路だよりの充実を図る。</p>	<p>(1) 検討会議の設置・運営及び進捗状況を評価する。</p> <p>(3)</p> <p>ア・教職員向け学校教育自己診断結果におけるキャリア教育の充実度 90%以上（平成23年度81%）</p> <p>・平成23年度は5回発行したが、7回をめざす。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">センター的機能の充実と専門性の向上</p>	<p>(1) 障がい者理解啓発及び交流教育を推進する。</p> <p>ア 教職員の意識高揚 イ 居住地校交流の拡大・充実 ウ 公開授業の実現</p> <p>(2) 学校ホームページの充実</p> <p>ア 地域への支援となる教材発信の充実 (3) 教職員の専門性の向上を図る</p> <p>ア ICT活用の充実 イ 教員の支援教育の専門性向上及びOJTを活用した人材育成</p>	<p>(1)</p> <p>ア・教職員の交流及び共同学習への意識を高める研修を研究部と連携し充実させる。</p> <p>イ・居住地校交流は6月に希望調査し、平成23年度の20名の倍増をめざすとともに、1校での複数回の交流を実現する。</p> <p>ウ・これまで取組んでいない地域の小中学校教員を対象とした公開授業を実施する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・ホームページの再構築と小中学校への支援教育のサポートとして、発達段階に応じた教材等の発信を充実させる。</p> <p>(3)</p> <p>ア・ICT機器を活用した教育活動の充実のため、タブレット型PCを購入し、知的障がい及び発達障がい生徒の授業充実を図る。</p> <p>イ・経験の少ない教員及び希望者を対象にした研修の充実を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・教職員向け学校教育自己診断結果における交流教育の充実度 80%以上（平成23年度63%）</p> <p>イ・平成23年度の20名の倍増をめざし、学期に1回の交流を実現する。</p> <p>ウ・今年度は1回実施する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・教材等の発信量が年度当初の倍増をめざす。</p> <p>(3)</p> <p>ア・タブレット型PCの活用状況及び授業計画・報告を受け、生徒アンケートを行う。</p> <p>イ・受講者数の増加・充実をめざす。（平成23年度25名が20回研修を受講）</p>	
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">安全・安心な学校づくりの推進</p>	<p>(2) 安全教育や健康教育（食育を含む）の指導法の進化</p> <p>ア 保護者向け情報発信の充実 イ 施設・設備の安全性及び美化の充実</p> <p>(3) 安全で安心な学校づくりの推進</p> <p>ア 危機管理マニュアルの検証 イ ヒヤリハット事例集の作成</p>	<p>(2)</p> <p>ア・避難訓練及び交通安全教室などの安全教育指導法の研修及び保健だより、食育だよりを充実する。</p> <p>イ・毎月実施している安全点検の充実及び老朽化した校舎内の清掃・美化を強化する。</p> <p>(3)</p> <p>ア・危機管理マニュアルや不審者対応マニュアルなどの検証と有効的活用できる冊子にするなど整理する。</p> <p>イ・昨年度収集したヒヤリハット報告書を集約し、教員研修の資料として活用する。</p>	<p>(2)</p> <p>ア・訓練前の教員研修を必修とする。また、各だよりを増加発行する。（平成23年度11回の発行を15回発行）</p> <p>イ・保護者向け学校教育自己診断結果における校舎内の美化の満足度を70%以上（平成23年度60%）</p> <p>(3)</p> <p>ア・関係分掌でマニュアル集を作成する。</p> <p>イ・平成24年度で事例集を完成する。</p>	